軍事施設を建設し戦闘機を

第2回

中国の

ド・マハンのいう「海洋国 戦略研究者のアルフレッ 戦争以来、米海軍の軍人で

きた。米国は東シナ海およ

家」として世界に君臨して

び南シナ海で中国の覇権を

米国はスペインとの米西



司

米国は中国の |の覇権を受け入れるの|

国、台湾のほか東南アジア 6カ国が接している。 ここには数百の島嶼や岩

あろうか。南シナ海には中

受け入れることができるで

を領海であると定めた。そ 海の90%を領有する九段線 の実効支配を奪い、南シナ ら奪取。2012年にはフ の年に中国は本土から最も のは1974年からで、こ 域で積極的に活動を始めた れ以降、中国は急ピッチで 近い西沙諸島をベトナムか 礁があるが、中国がこの海 南シナ海の島嶼を埋め立て ィリピンからスカボロー礁 朝鮮半島では北朝鮮の

の派遣範囲を東南アジアの で中国が通常戦争では優位 島、南シナ海、台湾の順で タンク)の米中衝突リスク 所は今後5~15年でアジア あげている。また、同研究 点」となり得る場を朝鮮半 広範な海域に拡大する。 についての分析では「発火 ランド研究所(米シンク か国

新たに「空中」「デジタル」「氷上」に展開中国の覇権拡大は地上構想にとどまらず

環太平洋合同演習(リムパ 響力を及ぼし地政学的リス ているが、そこに中国が影 現在、米朝がしのぎを削っ 核・ミサイル問題をめぐり クは高まっている。 それを阻止すべく米軍は した。米国の本腰が垣間見 ソング・ハの中国軍の招聘をツク)への中国軍の招聘を 国は、米太平洋軍の名称を 取り消し、さらに5月末に 戦」を展開したうえで、米 南シナ海へ「航行の自由作 「インド太平洋軍」に変更

た。そして、中国はインド S)で「リビジョニスト・ に立つと結論づけている。 トランプ政権は昨年末、

パワー」(現状変革を試み のが国益であるとする。 威に対し米国の繁栄を守る る。そして、その中国の脅 は「競合相手」と断じてい としており、米国にとって 地域秩序の再編を試みよう 太平洋地域で米国に代わり る国)と中国を位置づけ 国家安全保障戦略(NS

せている。 資に喜ぶ反面危機感も募ら

ユーラシアから締め出されつつある米国中国が「一帯一路」構想の「楔」打ち込み

の覇権を中国にとられるの とか死守したいだろう。 は中国とロシアに牛耳られ その分、米国はユーラシア を許すのか。そうなれば、 を打ち込んでいる。そして ユーラシアの中心に「楔」済、安全保障、政治の面で るならば、海洋覇権はなん つつあるのが現状である。 人陸から次第に締め出され 路」構想を手段として経 米国は、ユーラシア大陸 このように中国は「一帯 しかしながら南シナ海で り越えるかが日本の外交の 度は極めて高い。その「捻済面において中国への依存 盟の役割は益々重要度を増 する「棲み分け」が現実味 太平洋を中国と米国が二分 れ現象」をどう戦略的に乗 を増すかもしれない。 目の当たりにして、 持を目指す米国との競合を 打破を目指す中国と現状維 している。だが、日本は経 「腕の見せどころ」となる 北東アジア地域での現状 日米同

北東アジア情勢と日米安保の役割 「一帯一路」と日米同盟 げた。陸上のシルクロード それだけではない。 アジア、欧州、アフリカに と海上シルクロードに沿い 「一帯一路」構想を打ち上 2013年11月、中国は 中国の覇権拡大の試みは

の戦略である。 備と経済発展を整える中国 またがる六つの経済地域、 64カ国を対象にインフラ整

展開も始まっている。 設)という新たな分野への 経由で北欧に至る海路の建 業)、「デジタル・シルク ロード」、「氷上シルクロ ロード」(航空サービス産 たけでなく、「空中シルク -ド」(中ロ共同の北極圏 しかし対象国は中国の投 最近ではこの地上の構想

とを2017年に決定し アラルンプールとシンガポ 用率が低く資金難に陥っ010年に建設したが、利 中止を発表し、東海岸鉄道 を99年間中国へ貸し出すこ た。そのため同港の運営権 ている。この二つの鉄道計 計画も中止する意向を示し タ港を中国からの借款で2 また、マレーシアは、 スリランカはハンバント ルを結ぶ高速鉄道の建設

投資で進められ経済発展が 迎されている。中国とパキ ハイウエイの建設が中国の 受ける影響は小さくない。 の中核を成すため、中国が 画は中国の「一帯一路」構想 期待されているからだ。 スタンをつなぐカラコルム 一方、パキスタンでは歓

一要度を増す日米同盟の役